



Voice ジュブリー 25 東京

ジュブリー 5025に思うこと



平成29年6月1日創立記念式典の後、ホテルグランドパレスで開催された第3回目のジュブリー5025に、第56回（参列者38名）ご卒業の先輩方とともに、我々第81回卒業生（参列者東京校20名、新潟校27名）はご招待いただきました。

厳かな雰囲気の中、創立記念式典は肅々と進行し、毎年楽しみな中原 泉 学長の本学に関するエピソードが多分に盛り込まれたご挨拶も終わり、例年通り校歌斉唱で式典は終了ですが、今回は、ジュブリー5025の81回東京校卒の代表として挨拶することもあり、もっとゆっくり進行しないかと願うばかりでした。

肝心の挨拶は、失礼のないようにと原稿を用意したにも拘らず、某教授に、「長い、早口、声が小さいと」三拍子そろったダメ出しをされ、「珍しく緊張してたの？」なんて言われてしまう散々なできでしたが…（笑）。

ところで、自分なりにジュブリー5025の意味を考えていたところ、5030でも4020でもなく5025である妙を感じました。4020のほうが40の先生方もまだまだ現役で歯科医業をされているでしょうし、20であれば45歳くらいで、様々な脂がのり始めた時期でしょうから参加者も多いのではないかと思います。

一方、歯科医師になるのは大体25歳くらいであり、私たちが生を授かったころにジュブリー50の先生方はちょうど歯科医師として旅立ちを迎えている時期です。歯科医業、校友会と契りを交わしたと考えれば金婚式、銀婚式となるのですが、旅立ちという観点から考えると実に絶妙な間隔であると思います。



筆者の挨拶

出生時の話で考えると、我々は高度経済成長期の真ただ中に生

まれましたが、ジュブリー50の先生方は、まさに太平洋（大東亜）戦争真ただ中にお生まれになり、激動の昭和を歯科医師として日本を医療面から支えてこられた尊敬すべき方々です。

また私共が生まれた昭和42年前後の歯科医師数は3.6万人、人口は約1億人、私共が歯科医師になった平成4年ころは歯科医師が7.7万人と倍以上に増加していますが、人口は2,500万人増えただけです。まだまだオーラルケアの概念が周知されていない時代ですので、歯科医師一人当たりの患者数は単純計算でも倍近く担当されていることになり、体の負担といえば想像を絶するものがあります。ジュブリー50として参加された先生方の、柔和な笑顔の裏にあるこれまでのご苦勞は想像に難くありません。

ともあれ、日本全国から日本歯科大学を選択して、多くの同級生や先輩に出会い、中原学長、近藤校友会会長、ジュブリー50の先生方と同席させていただき、お祝いまでしていただけることは、今回来たくても早世のためこれなかった同期もいますので、何らかのご縁があるのだと思います。そもそも縁という漢字は糸へんで、某歌のように、縦横の糸が無尽に紡がれることで良縁（布・形）になっていくのだと思います。

現在、日本の歯科界の主要組織を本学校友会の諸先輩先生方が運営されていらっしゃると思いますが、これまでの弛みないご尽力とご努力の賜物であり、頑丈かつ骨太な縦の糸を紡がれてこられた成果だと思われれます。今回の出席率を見てもジュブリー50の先生方の横の糸の太さには到底かないませんが、ジュブリー5025をきっかけに本学の伝統を汚さぬよう、同期の横の糸の強化を心がけることが、校友会の先輩先生方、今後旅立つ後輩たちへの使命であると感じています。

最後に、数年ぶりに再会した同期と話せたのも嬉しいことでしたが、25期も先輩の先生方と同席させていただく機会はそうそうありませんので、意見交換ができる機会を自ら逃したことを残念に思う次第です。

（楊 秀慶・81回記）